

主な記事

- 地域審議会が発足 2
- 日置市防災訓練 4
- まちの話題 8
- 市民の広場 18

HIOKI-City <http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

ひびき

HIOKI JOURNAL SEP.2005



鹿児島県日置市

市の人口(住民基本台帳)

総人口	53,392人	(6)
男	24,935人	(2)
女	28,457人	(4)
世帯数	22,233	(1)
9月1日現在()は前月比		
市の面積	253.02km ²	

今月の表紙



体力と気力への挑戦
早朝から夕暮れまで、まる2日間にわたって踊り続ける伊作太鼓踊り。数ヶ月〜1年間かけて練習を積んできた自分への挑戦です。
(8/29 伊作太鼓踊り)



扇尾地区は日吉地域の東側に位置し、伊集院地域・吹上地域・旧松元町に隣接しています。諸正岳のすそ野に棚田が広がる山あいの農村地帯で、田平・小吹・岩井田・諸正・檜木の5自治会に約百世帯・二百七十人が暮らします。しんこ団子発祥の地といわれる「深固院跡」があり、ここで始まった祭りが地区の大きなイベントになり、活性化につながっています。



館長 上田平 重夫さん

わが地域

扇尾地区公民館(日吉地域)

「しんこ団子」で地域の活性化



フラワーロードや集落花だんで美しい地域に

深 固院は一三八六年に薩摩藩禅宗の開祖、石屋和尚が設置し布教を始めたといえられ、度重なる飢きんから農民を救うために、和尚が落穂を粉にして餅を作って焼いて食べさせたのが、しんこ団子のはじまりといわれています。その歴史のないわれを地域資源として生かし、始まった「深固院祭り」(毎年十一月に開催)は今年で十三回を数えます。田んぼと

今 山に囲まれた場所、簡単な祭りのまねごとをしたのが始まり。では、深固院ふれあい広場が整備され、地区内外から大勢の人が訪れる盛大なイベントに。祭りの目玉であるしんこ団子は、地域の女性が総出で作ります。約三千本用意しますが、飛ぶように売れ、毎年、足らなくなるほど。祭りは夏から準備。八月に各戸に野菜の種を配布して、祭りのお供物にする農産物を育てます。お供えとして、持ち寄った野菜や米は祭りの最後には地区外からの参加者に抽選でプレゼントするユニークな取り組みも。六、七年前からは、ツツジやアジサイ、サザンカ等の植栽で、フラワーロードづくりや集落の共同花だんも整備、美しい花が集落内の道路を飾り、目を惹かせてくれます。年二回、自治会



地区最大のイベント「深固院祭り」

この花だんコンクールも実施します。そのほか、お田植え踊りや扇尾祭りなど、農村文化の伝承活動も積極的に取り組んでいます。こうした村づくり活動等は、年四回開かれる、むらづくり運営審議会を中心に協議。祭りなどを運営するのは大変なことです。地域の連帯感や結束を強めることにつながっています。自分たちでできることは自分たちで取り組んでいく。それが、この先、むらづくりに必要になると思います。

地震列島日本の様相を濃くし、最近、航空機事故も多い。でも、各地で起きる惨事を耳にしても「怖いな」と思うだけで、実はこうした災害が自分の身に降りかかるとはなかなか考えない。「まさか」と自分の都合のいいように考えてしまう。地震予知がよく耳にするのが〇〇年周期で発生しているという話。ここ数年は過去発生した大地震の周期当たり年? なんでも地震発生を十秒前に予測できるとかできないとか。わずか十秒前でも周知できれば被害は相当抑えられる▼でもやっぱり突発的に発生するのが地震。グラツときた瞬間、自分の取るべき行動を常に、その場で、想定しておきたい。想定外にならないように▼広報を編集している予定されていたイベントが中止になったり、当てにしていた情報が入らなかつたりで、締切前にバタバタ焦ることも。予備の記事を頭のスミに入れておかないと大変。やっぱり「備え」は大事と言いたいが、なかなか。

4 平成17年9月号

発行/日置市役所 総務企画部企画課
〒899 2592 日置市伊集院町第一丁目100番地
TEL 099(273)2111 FAX 099(273)3063
<http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>



地域の声を市政に反映 日置市地域審議会が発足



▲市長から委嘱状の交付を受ける委員の皆さん

日置市の旧四町ごとに設置する地域審議会が発足し、八月八日に中央公民館で、第一回合同会が開催されました。各地域審議会ごとに委嘱状が交付され、宮路市長は「公募の委員はほとんどの地域で定員を超え、関心の高さがうかがえた。それぞれの地域の実情を審議会で審議していただき、地域の声を市政にあげてほしい」と述べました。

旧町の地域ごとに設置

地域審議会とは、合併により行政区域が広がることなどによって、地域住民と行政との距離が広がり、地域事情や住民の意見が、新市の施策に反映されにくくなるということがないように合併特例法により設置できるもので、市の附属機関となります。

日置市では、旧四町の区域ごとに、地域審議会を設置し、委員の任期は二年としました。設置期間は平成二十七年三月末までの約十年間、各種団体の代表者や青年・女性層の代表者、学識経験者、公募委員など、それぞれ二十人の委員で構成されます。

地域審議会には、市長の諮問に応じて、新市建設計画を進めていくうえでの意見や計画変更に関する意見を述べたり、必要に応じて地域の実情や住民の声を集約し、市政に反映させていくことなど、地域と行政を結ぶ大切な役割を担っています。

総合計画策定に向けて

合同会では主に、日置市まちづくり計画の概要や、それを基本として今年度、策定される日置市総

合計画の策定方針や基本的な柱、策定スケジュールなどを説明。今後、地域ごとに審議会が開催され、市総合計画に掲げる地域の進むべき方向性や地域別振興に地域の声を反映させていくこととなります。

地域審議会は旧町の地域ごとに開催され、地域住民の声を市政に反映させていくことが主な役割となりますが、市全体の均衡ある発展のためには、各地域審議会が連携し、情報交換を図りながら、市全体で取り組む課題や行事等について連携、協力体制を整えるなど、市の一体性を醸成する取り組みも大切になってきます。

東市来地域審議会委員(敬称略)				*太字は会長	
No.	氏名	組織・役職等	No.	氏名	組織・役職等
1	片平 勇	さつま日置農協理事	11	上園代津美	女性連絡協議会
2	宮内 光次	商工会会長	12	上村 静好	体育協会副会長
3	野崎 宏昭	観光協会会長	13	梅木 俊子	生活研究グループ連絡協議会会長
4	小瀬 美利	江口漁協組合長	14	徳重 栄	学識経験者
5	濱崎 満洋	自治会連絡協議会長	15	三原 辰子	学識経験者
6	徳留早百合	民生・児童委員協議会	16	野元 幸一	公募委員
7	外園 忠	社会福祉協議会評議員	17	高橋 信夫	公募委員
8	南郷 洋徳	高齢者クラブ連合会支部長	18	松山謙三郎	公募委員
9	浅井 良一	身体障害者福祉協議会長	19	前田 照雄	公募委員
10	久保 文男	PTA連絡会	20	西蘭 俊明	公募委員



日吉地域審議会委員(敬称略)				*太字は会長	
No.	氏名	組織・役職等	No.	氏名	組織・役職等
1	田麦 雅之	さつま日置農協	11	春成 道夫	自治会連絡協議会代表
2	上内 修一	商工会会長	12	松村 平	子ども会育成連絡協議会長
3	迫 千穂子	生活研究グループ会長	13	下笠 政文	体育協会会長
4	久保 勲一	自治公民館連絡協議会長	14	二石 純一	中核農家代表
5	諏訪免順子	婦人団体連絡協議会長	15	森園 範夫	企業代表
6	田代 幸次	特産品協会会長	16	井上 幸一	学識経験者
7	笠野 和彦	社会福祉協議会支部長	17	笠野 邦彦	学識経験者
8	宮脇 誠	PTA連絡会長	18	山口 義光	公募委員
9	伴野 四朗	高齢者クラブ連合会支部長	19	川畑サツキ	公募委員
10	福留 重盛	民生・児童委員協議会長	20	木下 幸雄	公募委員



伊集院地域審議会委員(敬称略)				*太字は会長	
No.	氏名	組織・役職等	No.	氏名	組織・役職等
1	重信 忠身	さつま日置農協理事	11	池田 廣子	食生活改善推進員連絡協議会
2	帖佐 秀人	商工会	12	岩崎 朱実	更生保護女性会
3	末永 義弘	観光協会	13	隈部 操	文化協会
4	四元 美紗	婦人連絡協議会	14	上妻 勲	学識経験者
5	弓場 光博	ジュニアリーダーズクラブ	15	安廣 重久	学識経験者
6	佐多 京子	社会福祉協議会理事	16	久木田洋子	公募委員
7	永尾 仁志	PTA連絡会会長	17	酒匂 靖夫	公募委員
8	大西 早苗	高齢者クラブ連合会支部長	18	鈴木 芳香	公募委員
9	石神 三郎	民生・児童委員協議会	19	橋口 修治	公募委員
10	藤松 劼	自治会連絡協議会長	20	松尾 四男	公募委員



吹上地域審議会委員(敬称略)				*太字は会長	
No.	氏名	組織・役職等	No.	氏名	組織・役職等
1	原口 三善	さつま日置農協理事	11	月野多美子	生活研究グループ連絡協議会長
2	西 陽三	商工会会長	12	山口 隆史	青年団連絡協議会長
3	池田 日道	観光協会副会長	13	甲斐 克美	学識経験者
4	有馬 澄子	婦人会連絡協議会長	14	西園 一幸	学識経験者
5	黒瀬 晴稔	吹上町漁協参事	15	原田 昌作	学識経験者
6	佐土原伸也	社会福祉協議会代表	16	恒吉 英治	公募委員
7	岡元由美子	PTA連絡会母親代表	17	馬籠 敦男	公募委員
8	川原 修	高齢者クラブ連合会支部長	18	竹之内 稔	公募委員
9	横山 恭子	民生・児童委員協議会長	19	船倉慶三郎	公募委員
10	榊 秀徳	自治会連絡協議会長	20	中島 昌治	公募委員



震度5強
400mmの豪雨

そのとき、あなたは生き残れるか!

「平成17年8月28日、薩摩地方を震源とする強い地震が発生、伊集院で震度5強を観測した。一方、大気の状態が不安定となり豪雨、降り始めからの雨量が400mmに達する恐れ」
地震による家屋倒壊や火災発生が相次ぎ、豪雨によるがけ崩れや河川のはらんへの警戒も必要な状況下。
そのとき、あなたはどんな行動を。いざという時の判断と行動が生死を分けることになるのです。

**いざというときでも
起こりうる大災害**

かつてない大地震と豪雨が、同時に日置市を襲うという想定で、八月二十八日、伊集院地域で市総合防災訓練がありました。
最近では宮城県沖を震源とする地震（8月・震度6弱）や福岡県西方沖を震源とする地震（3月・震度6弱）など、今年に入ってから、各地で大きな地震が発生。また鹿児島県は台風や梅雨期の豪雨災害なども少なくなく、大災害はひとことではありません。
平成十七年版防災白書によると、



▲いざというときには、地域の組織力が求められる



▲消防組合レスキューによる救出訓練



▲消防団による水防訓練



▲県の防災ヘリによる被害状況訓練

**市民の生活を支える
地域防災のかなめ**

「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い使命感を持った消防団。団員は、普段はそれぞれの職業で仕事をしながら、いざという時に仕事をなげうって活動にあたります。地域が一体となった防災活動こそが、安全なまちづくりの第一歩ですが、そのリーダーとして活躍しているのが消防団です。

それぞれの町で長い歴史を持つ消防団も新たに日置市消防団として再編されました。旧町単位の消防団を「方面団」とよび、それぞれ「支部」「班」とよびかたが違っていた下部組織は「部」という名

消防団

自然災害による年間の死者・行方不明者数は三百六人にのぼっています。これは阪神・淡路大震災の平成七年、北海道南西沖地震の平成五年を除くと、約二十年ぶりに三百人を超えたこととなります。いざというときでも起こりうる大災害への「意識」と「備え」が、あらためて大切になってきます。
日ごろの危機管理が大切
防災訓練は「情報伝達訓練」と、多数の家屋倒壊や崖崩れの発生、

さらには火災の多発、延焼で、負傷者が多数いるとの想定で、住民への避難誘導、消火訓練や救出訓練、炊飯支援訓練などの「実働訓練」に分けて実施されました。
実働訓練に参加したのは伊集院北地区の住民三百人をはじめ、消防団や日置地区消防組合など約四百人。住民らは、いざという時に安全で適切な行動がとれるように、それぞれの役割を確認しながら真剣に訓練に取り組み、また消防団や消防組合の訓練を見守りました。単なる訓練に終わらせることのない

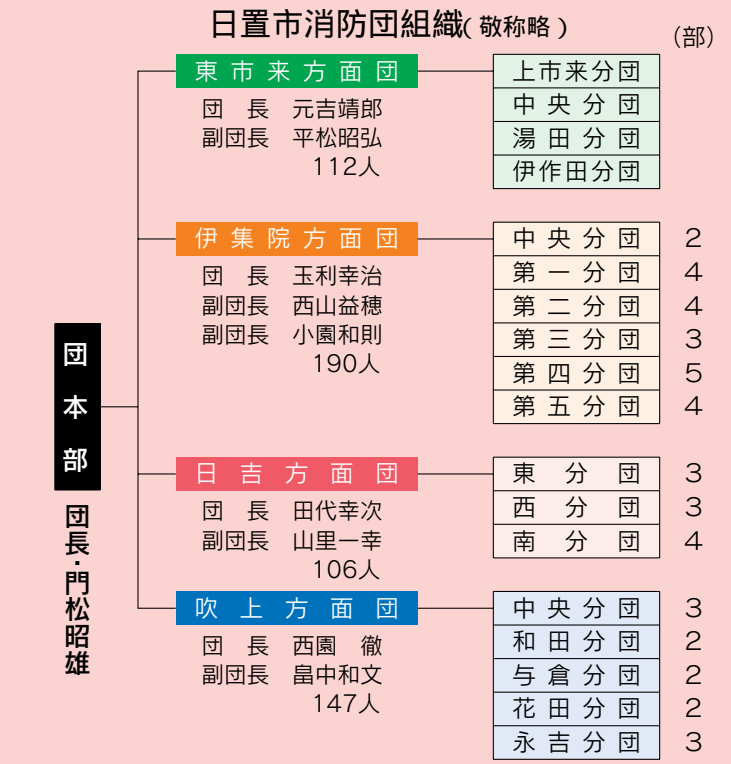
一人ひとりの防災力を高める
まだ記憶に新しい阪神・淡路大震災では数多くの死者が出た一方で、その何倍ともいわれる多くの人々が、家族や近隣住民に助け出されたといわれています。
大地震の発生直後は、道路の損壊や家屋の倒壊などで、消防や警察がすぐに現場に駆けつけることが困難になります。そこで、求め

られてくるのが「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えと地域の組織力です。
しかし、災害時に助け合うためには、まず自分の身を守ることが大前提となります。
一人ひとりが防災に対する意識と知識をもち、いざという時に行動できるよう、防災力を身につけておくこと。それが、個々の家庭を災害から守るだけでなく、地域全体の防災力にもつながります。
あなたの「意識」と「備え」は大丈夫ですか。

活動はますます大きな役割を担っています。活動や体制がさらに充実してほしいものです。



▲市長から団旗を手渡される門松団長



マレーシアの心にふれました

昭和五十八年、「からいも交流」の受入家庭と留学生の偶然の出会い。旧吹上町とマレーシアの交流はそこから始まりました。留学生から「お母さん」と慕われた主婦らが築き上げた心と心の交流は、やがて地域へと広がっていきます。

留学生は同国の「東方政策」で国費派遣された若者。帰国後は母国発展に尽力しながら、NGO団体ALEPSを組織。日本との交流に取り組んでいました。

一方、旧吹上町ではマレーシア交流実行委員会が組織され、ALEPSの協力のもと、民間と行政が一体で交流を育んできました。

その中心が親善大使派遣です。



▲ サッカーはマレーシアの国技。スポーツでも心が通います



▲ 本場でマレーシアダンスを披露。練習の成果を發揮



マレーシアに行行って

吹上中年 大迫久瑠実さん

MRSMという中学校に行きました。チャレンボンという民族楽器の演奏やマレーシアの格闘技など見ておもしろかったです。村ではたくさん果物を食べました。ランブータン・マンゴスチン・マタクチン…。ドリアンはくさくさもなく、味もよかったです。習字もしました。ホストの名前でシラを梓羅、アイマイを愛舞、リナを里菜と書きました。とても喜んでくれました。

私のマレーシアの旅は幕を閉じました。でも、またこの幕を開いて、マレーシアに行きたいです。

国境を越えた音や歌

あいさつなど基本用語は学んだものの「ジェスチャーやむなし」と聞き直っていた会話。が、村では一年間吹上で技術を学んだ青年たちが通訳してくれ、また、英語教育を積極的に推進しているマレーシアのおかげで片言の英語でも思いを伝えることができました。

ステイ先には、入れ替わり立ち代り親戚や隣人が遊びに来て、しまいはだれが兄弟で友達なのか分からなくなってしまう。そんな日常に懐かしささえ感じました。吹上の風景や人を知る人も多く、話も弾みました。

村での最後の夜、村青年会主催で文化交流会がありました。大使は民族衣装を着せてもらい、出席しました。華麗な伝統舞踊が繰り広げられる中、大使も練習を積ん



▲ 緊張したホストとの対面

マレーシアまでは空路六時間。世界一の規模を誇るクアラルンプール国際空港を見学する間もなく、ホームステイ先のチェノール村へ直行。夜九時、村に到着しました。遅い時間にもかかわらず、大勢の出迎えを受け、四日間お世話になるホストファミリーと対面、歓迎と緊張の笑顔が交錯しました。

今もつながる先人の思い

初日、上石津町役場に到着。緊張した団員を迎えてくれたのは同町職員の歓迎の拍手でした。

夜は町主催の歓迎交流会が開かれ、後半お世話になるホストファミリーと初めて対面。吹上音頭を踊り「これから六日間よろしくお願ひします」。やっとなげな声が出ました。

翌日は、義弘公が臨んだ関ヶ原古戦場や、西軍の将、石田三成陣跡など、四百年余前の足跡をたどりました。

吹上と上石津が友好のまちとなる縁をつくった豊久公と三輪一斉（みわいつさい）の墓前では、「豊久公の武勇に心を打たれ、手厚く葬ってください」と上石津の祖先のおかげで、私たちはここを訪れることができました。「交流を通じ



七月二十七日から八月二日まで、小学生八人の交流団員が岐阜県上石津町を訪問しました。

同町は関ヶ原合戦で島津豊久公（島津忠良公のひ孫・永吉島津家）が、主君義弘公の敵中突破を成し遂げさせようと奮戦し果てた地として、吹上地域と歴史的に深い関わりがあります。

今に息づく先人の心意気

旧吹上町では、歴史を未来に生かす町づくりと、目的を持った地域間交流を進めるために、歴史的に縁深い上石津町と交流を深めてきました。青少年交流はその核として隔年で相互派遣されています。

吹上と上石津は平成十二年「友好のまち」を宣言しています。



▲ 自信満々のはずの綱引大会。結果は…



最高の思い出

永吉小六年 諏訪 希実さん

社会の時間に、家康や関ヶ原合戦を調べたことがあり、全部知っているつもりでした。でも、上石津で教科書にのっていないことも学んで「こんなことがあったのか」と初めてわかりました。

ホストファミリーとガラス工場やびわ湖の近くの長浜城に行きました。家康、秀吉、信長が勝頼と戦った、長篠の戦いのようすも知りました。

上石津に行けるなら、また、行きたいです。私にとって五泊六日はすくなく、いい思い出です。これからも交流を続けてほしいです。



▲ 日置市の特産品。いかがですか

てたくさんの人と友達になって、上石津町もつと仲良くしていきます」と誓いました。

事前研修で学んだとおり、豊久公の墓所には草一本生えていません。三輪一斉の思いは今も脈々とつながっていたのです。

「ここにいたい」

三十日、町で最大のイベント「もんでこかみいしづ」（戻っておいで）という意の方言）に参加しました。昼間は、コツを習い自信満々で臨んだ綱引き大会。が、力を入れる前にあつという間の連敗、敵中突破はなりませんでした。

夜祭りでは、ステージで町民に紹介されました。また、会場の一角で吹上をはじめ日置市の物産も販売、新市の宣伝に一役買いました。そして、団員はいつしか町の人と一緒に輪踊りの中へ。天真爛

漫な薩摩っ子ぶりを発揮してしました。もちろん二泊三日のホームステイでも「うちの子どもこのくらい活発なら」とホストにいわしめるほど。

「ここにいたい」「住みたい」。帰りのバスでの団員のことは本音かもしれません。

上石津町も来年三月に合併し、「大垣市」となります。



伊作田踊り

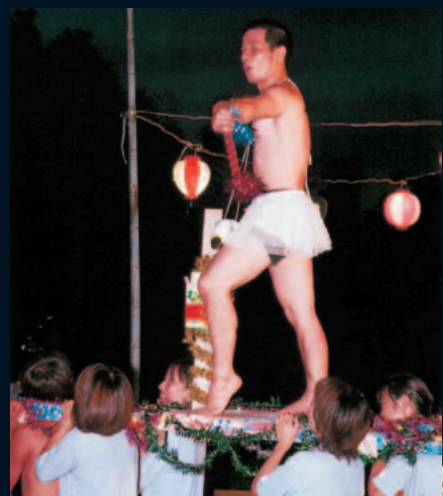


3年に1度、披露される伊作田踊り
約60人の踊り手が地域の11か所で披露しました

とうろう祭り



飲食店組合夏祭り



美山夏祭り



猛暑の夏 祭りと伝統行事で魅せる

今年の夏も猛暑続き。東市来地域では暑さを吹き飛ばす夏祭りや伝統行事でにぎわいました。
七月三十一日には、東市来町商工会館前広場で、東市来町飲食店組合主催による「夏祭り」とがんばろう湯之元会主催による「とうろう祭り」が、八月七日には、美山校区の「夏祭り」が行われ、訪れた人たちは、暑さを忘れてステージのマジックショーやのど自慢大会などを楽しんでいました。

八月十五日には、市指定無形民俗文化財で五穀豊穡を祈願する「伊作田踊り」が三年ぶりに披露され、市民や帰省客から温かい声援が送られました。また、同日の夜には、北山集落の納骨堂前で、お盆の送り火の行事として百年以上続く伝統行事「火振り」が行われ、夜空を焦がす勇壮な炎に観客からは大きなどよめきと歓声が沸き起こりました。



火振り

精霊を送るお盆の伝統行事「火振り」
火の粉を散らしながら大きな弧を描く豪快な行事に歓声があがる



昔の遊びや技術を楽しく学ぶ

第6回ふれあい達志塾

地域民生委員や高齢者クラブとの交流を通して、子どもたちの心豊かな成長を願う「第6回ふれあい達志塾」が8月2日、湯田小学校で行われました。お手玉・紙てっぽうなどの昔の遊びやうなぎ取りの仕掛けや魚釣りの川遊びなど、10部門に分かれた子どもたち230人は、地域のおじさん、おばさん100人の指導のもと、楽しく学びました。

サマーコンサート IN 高山

お盆前の8月12日の夜、高山地区交流センターで、「サマーコンサート IN 高山」がありました。これは毎年、鹿児島大学クラシックギタークラブが同センターで合宿し、市民の皆さんに練習成果を発表しているものです。

会場には、子どもから高齢者までたくさんの人が訪れ、クラシックギターのさわやかな音色が会場を包むと、昼間の暑さも忘れて聞き入っていました。休憩時には、子どもたちは学生からギターの弾き方を習うなど、楽しい夕べを過ごしました。



涼しげな音色に、暑さも忘れ…

社員総出で学校に貢献

民間会社が奉仕作業



八月六日、伊集院町にある南州道路サービス(株)の社員が総出で、伊集院北小学校の侵入路や校庭などの補修作業をボランティアで実施しました。これは従業員の子どもが同小に通っていることや、かねて工事でお世話になっている地域へ貢献できたらと、昨年に続き行われたもの。主な作業は約二百五十㎡の進入路の舗装打ち換え。手慣れた仕事とあって、ローラーやバックホウといった大型の機械を使って、手際よく作業を進め、見違えるようになりになりました。

同校は来年度創立五十周年を控え、学校はもちろん、地域ぐるみで校内の環境美化に力を入れており、今回の奉仕作業をとっても喜んでいました。

軽快に22番まで完唱

第14回妙円寺詣りの歌唱大会

「明くれど閉ぎす♪」とだれもが一度は口ずさんだことがある「妙円寺詣りの歌」。地域に根付いている郷土の歌の歌唱大会が八月十九日にありました。これは22番まで歌詞がある同歌を覚えることで郷土に愛着を持ってもらおうと、伊集院の小中学生を対象に行われている恒例の行事。

全校区で開催された大会に三百六十一人が参加。22番までを暗唱する月色コースは五十三人、15番までを暗唱する鳥頭坂コースは六十四人、団体で22番まで暗唱するコースは二十五団体が完唱。兄たちが練習しているのを幼いころから耳にして覚えてきたという妙円寺小二年の木場佳音さんも昨年に続き、22番までを軽快に完唱しました。



夏休みの体験にむらづくりの会が力添え

飯牟礼むらづくり連絡協議会



八月二十八日、飯牟礼小学校で鯉のつかみ取り大会と焼き板工作体験がありました。これは飯牟礼地区むらづくり連絡協議会(榎園晃会長)が中心となり、地域の人の協力で行われたものです。

鯉のつかみ取りは、飯牟礼地区にある水田かんがい用のため池に八年前、有留一宇さんが放流した鯉を提供。三十〜四十センチほどに育った鯉を家庭用の簡易プールに放し、さっそく子どもたちは中に。狭いプールを勢いよく逃げ惑う鯉をなかなか捕まえられなく、悪戦苦闘。全身ずぶぬれになりながら楽しみました。

焼き板工作は「緑の少年団」に入っている同校の体験活動も兼ねて行われ、地区内で育ったヒノキの間伐材を使った表札作りに挑戦。それぞれヒノキの板に名前を書き、機械を使って彫りました。彫った溝に砂を埋めて、バーナーで焼いて仕上げた板は、大人もびっくりするようなりっぱな表札に。

子どもたちの成長を見守る地域の協力で、夏休み最後の日曜日に楽しい体験ができた子どもたち。忘れられない夏休みの思い出となりました。

暑さも忘れてにぎやかに晴天に恵まれた夏祭り

いじゅういんサマーフェスタ 2005



伊集院町観光協会主催の夏祭り「いじゅういんサマーフェスタ2005」が、八月六日から八日まで二日間にわたり、郡地区会場と中央地区会場で開催され、祭りの始まる夕方には涼を求めて大勢の家族連れなどが詰めかけました。

六日は、伊集院文化会館前駐車場に郡地区会場が設けられ、ちびっこゲーム大会や特設ステージでの吹奏楽演奏、歌謡ショーなどの催し物が。八日は、中央地区商店街の通り一帯を会場として、今年はいよいよメインステージを恵比寿神社隣に設置。保育園児の大鼓演奏、マゴロ解体ショー、歌謡ショーなど、日ごろ見ることでできない催し物が披露されました。

また、数多くの出店が立ち並び通りは夜遅くまでたくさんの人出でにぎわいました。

両会場とも最後に「お楽しみ抽選会」が行われ、豪華賞品の当選番号が読み上げられるたびに、大きな歓声とため息が沸き上がっていました。

ボランティアで地域に恩返し

管工事組合



市内の水道事業者でつくる日置市管工事組合(29社加盟・会長、今村等さん)の皆さんが八月十八日、奉仕活動を行いました。これは、日ごろからお世話になっている地域へ感謝の意を、毎年計画されているもので、今年も伊集院地区が小中学校の水周りの点検、その他の三地域は水源地周りの清掃や草払いを行いました。

当日は各社から一人以上が参加し、半日かけての奉仕作業。伊集院地区では校庭や校舎の水飲み場の蛇口、トイレの水栓の水漏れなどを点検して、調整、修理しました。組合ではこのほか技術研修にも定期的に取り組み、地域に密着し、貢献できる活動を進めています。

世界陸上で20位 さらになる活躍を

入船選手が帰郷報告

伊集院町出身で、今夏、ヘルシンキであった陸上世界選手権にマラソン日本代表選手として出場した、入船敏選手が帰郷し、八月二十三日に大会報告と支援助礼を兼ねて市長を訪問しました。

結果は20位と健闘。「レース前半、ペースが速すぎて、配分を間違えてしまった」と悔やんではいませんが「力は出し切った」ときっぱり。

高校時代からインターハイや県下一周駅伝などで活躍してきた入船選手は現在、カネボウに所属。仕事を終えてからの練習は一日、20〜30キロをこなすといいます。セビリア世界陸上の一万キロに続く日本代表。さらにレベルアップして、大阪世界陸上、北京五輪を目指します。





**消防日吉方面団
結団式(8/21)**
日吉老人福祉センターで、市長をはじめ、警察署長・消防団長、各方面団長列席のもと結団式がありました。



日新夏祭り(8/28)
日新通り会と子どもたちの協力により開催。六月灯で熊野神社に飾られた子どもたちの力作の灯ろうが祭りを盛り上げていました。



吉利北区
太鼓踊り

七月下旬ころから練習が始まり、毎晩軽やかなカネの音と力強い太鼓の音を響かせながら練習に励んできた各地の太鼓踊り。
本番ではそれぞれ息のあった勇壮な踊りを奉納し、福祉施設や各公民館等々各地域で披露するこ



吉利地区は、北区・中区・南区の三公民館が毎年、交代で太鼓踊りを披露していますが、今年の当番は北区。八月二十一日、夏の気まぐれな天気の前日から降り続く雨に心配しましたが、午前九時ごろには上がり、時間を繰り下げて始まりました。今年の踊り手は、カネ二人と小太鼓四人(小学二年・四年・五年生の各一人、平太鼓十八人の計二十四人、南方神社と吉利神社に奉納後、各地域で披露しました。



幡
太鼓踊り

今年の踊り手は、カネ四人と小太鼓四人(小学二年生一人・三年生二人・六年生一人)、平太鼓十四人の計二十二人。八月二十八日、諏訪神社・八幡神社へ奉納後、各地域で披露。東市来町にある施設「光の海」でも披露しました。



諏
訪
太鼓踊り

今年の踊り手は、カネ三人と小太鼓三人(小学二年生二人・五年生一人)、平太鼓十人の計十六人。八月二十八日、諏訪神社へ奉納後、各地域で披露。大きな鳴さいを浴びました。



環境にやさしい農業を

無人ヘリ航空防除

無人ヘリ部会による水稲の薬剤散布が六月下旬と八月月上旬、下旬の三回にわたり実施されました。平成八年に有人ヘリから無人ヘリに移行され、平成十年からは農業経営育成生産システム確立条件整備事業によりJAさつま日吉事業本部無人ヘリ推進部会による薬剤散布が毎年継続されています。早期水稲では約五十畝に一回、普通期水稲で約九十畝に二回散布し、環境にやさしい農業・減農薬農業の推進に努めています。
今後は日置市内にある他の無人ヘリ部会と協力体制をつくり、日置市全域にわたり農家の労働力軽減や病害虫適期防除を行い地域農業の経営安定向上に努めて行こうと考えています。



二学期を控えボランティア作業

吉利小PTA

八月二十八日、吉利小学校PTAによる廃品回収が実施され、貴重な再生資源が回収されました。廃品回収は地域からの要望も高く、地域住民のほとんどが協力してくれます。地域の協力を感謝しながら、PTA会員の手で収集された廃品は、古新聞・古雑誌など四ノトラック一台・二ノトラック五台にも及びました。
また、生活指導部の会員は、子どもたちが通う通学道を先生と一緒に点検、ロードミラーの清掃等に汗を流し、二学期のスタートに向けて子どもたちの安全確保に努めました。



地場産業を支える
早朝の芋掘り

朝掘りの会



九月一日、やつと空が明るくなり始めたばかりの早朝から、吉利の畑で芋掘りがありました。
これは日吉町吉利のサツマイモ生産農家十人で行く「朝掘り会」(会長 唐見政光さん)の皆さんによる芋の収穫で、地元の酒造会社と契約し、焼酎の原料用のサツ

マイモを朝早い畑から工場に直送しているもの。新鮮な芋はその日の午前中に仕込まれ、朝掘り仕込みの焼酎として人気があります。
初日となったこの日は、八農家から十三トを収穫。全体で約十五畝の畑で栽培され、収穫は十二月初めまで続きます。

吹上が燃えた夏



▲奉納3日前、吹上浜で身を清める踊り手

伊作 永吉

太鼓踊り



▲あいにくの雨 久多島神社に向かって礼した

宝くじ助成で 太鼓踊り備品を購入
伊作太鼓踊り保存会連絡協議会では、太鼓踊りの保存・継承のために平成十七年度コミュニティ助成事業を利用して羽飾りホロや収納箱、太鼓を購入しました。このように宝くじは、還元融資として地域づくりに役立っています。

絆がつかないだ伝統

伊作太鼓踊り(県無形文化財)が八月二十八日、南方神社で奉納されました。六保存会が輪番で担当しており、今年和音が八年ぶりに登場。中打ち四人、平打ち二十四人が軍配型の矢旗を激しくはねまわし、二十九日まで二日間わたり、各所で戦国の意気を伝えました。

永吉太鼓踊りは、関ヶ原合戦四百年祭以来五年ぶりに復活。が、奉納日の八月二十一日はあいにくの荒天となり、急きよ、永吉地区体育館で久多島神社へ向けて奉納しました。踊り手は自ら希望してきた地区内の小学生から大学生、二十一人。奉納では、若々しい凛とした空気が支配しました。

今回の奉納は、和音、永吉とも地区公民館が全面的に支援。保存会は師匠を中心に、練習に集中できました。また、家族は休みを返上して矢旗づくりや当日の付き添いなど、側面から支えました。

太鼓踊りという地域の大切な伝統をつなごうと、地域の、家族の絆がひとつになって、この夏、吹上が熱く燃えました。
*悪天候のため披露できなかった永吉太鼓踊りは十月十日、各所を回る予定で。

帰ってきてね カメタロウ!

花田小学校ウミガメ放流会



花田小学校でアカウミガメ百十五匹がふ化し八月十日、吹上浜で放流会が行われました。放流会には、同小児童らのほか、防災行政無線の呼びかけで帰省中の家族など約二百人が参加、手渡された子ガメに「カメタロウ」や「カメマル」などの名前を付けて、放流しました。
ふ化したのは六月十日、ウミガメ監視員から預かった卵百三十二個で、同校のふ化場で六十日間育ててきたもの。「ウミガメが大人になる確立は五分の一です」という説明に、参加した家族は思いを込めて放していました。また、同十九日には伊作小学校でも放流が行われました。

初めて見たよ 海の夕陽

さどわらなんでも探検隊

島津豊久公の縁で交流を深めている宮崎県佐土原町の「なんでも探検隊」隊員三十四人が、八月九日から二日間、吹上地域を訪れ、歴史探訪や地引網、交流活動などで吹上を体感しました。

一行は、山神の郷公園で昼食を兼ねたソバ打ちを体験。永吉小学校児童と「ジャンボいろは歌かるた」大会での交流のほか、豊久公墓所である天昌寺跡などを視察しました。また、吹上浜を訪れるアカウミガメの生態を学びました。

隊員を喜ばせたのは、吹上浜に沈む夕陽。太平洋から昇る朝日しか見たことのない佐土原の子どもたちは、真っ赤に染まる吹上浜に感動した様子でした。



平鹿倉地区夏祭り(8.14)
地区民が寄附しあう手作りの祭りに帰省中の出身者も笑顔で参加。小さな地区が一晩だけ膨らみます。市内で最も標高の高い(?)花火も上がりました。



吹上温泉「いい風呂の日」(8.26)
吹上温泉旅館組合加盟旅館では、毎月二十六日を「いい風呂の日」として半額補助券を進呈しています。二十六日は吹上温泉へぜひ。



シルバースポーツ大会(8.30)
高齢者クラブ会員約百五十人が参加して吹上浜公園体育館で行われました。和気あいあいの中にも、真剣なまなざしでスポーツを楽しむ一日でした。



防災訓練(9.1)
吹上浜公園での火災を想定し、さつま湖と正門池を水利に、吹上方面団員百五十八人が、迅速にホースをつないでいきました。

健康づくりは食事から — 食改さんの活動 —

健康の3要素は、栄養・運動・休養とされています。その中でも特に「栄養・食生活」はわたしたちが健康で幸せな生活を送るために欠くことのできないものです。

そんなわたしたちが健康であるために大切な食生活を地域で支えてくれているのが食生活改善推進員の皆さん（食改さん）です。

食改さんは、赤ちゃんから高齢者ま

心もからだも健康になればみんな幸せ



で幅広い年齢層の住民を対象に、健康づくり教室の試食作りや育児サークルでのケーキ作り、男性料理教室などさまざまな活動を行っています。まるで地域のお母さんのような存在です。

現在、日置市の支部長をしている久保フミさんは、吹上町の食改さん第一期生として、昭和四十七年から活動されています。現在八十四歳の久保さんは食改さん歴約三十年。時代の流れとともに地域の皆さんに指導する内容も様変わりしてきました。昔は栄養不足が多くみられ、特に乳製品の摂取を進めていましたが、今では逆に生活習慣予防のために肥満予防を指導している状況です。

健康であるための食生活のポイントを久保さんから伺いました。

一日に三十品目食べること
バランスよく適度に運動を
疲れたときは休養を

このように、地域には私たちが健康であるために食生活の面から一生涯命



活動していただいている食改さんがいることを知っていただけたでしょうか？皆さんも自分のこととして食生活を直視してみてください。毎月、このコーナーに「食改さんの健康メニュー」として一品ずつ紹介していきます。ご家庭での献立にぜひ参考にしてみてください。

健康情報 ひおき シリーズ(2)

豊かな食生活を送ろう

がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病は、食生活との関係が深い疾病です。食生活の問題として、エネルギーの過剰摂取、脂肪エネルギー比率の増加、塩分の過剰摂取、カルシウムの摂取不足などがあげられます。わたしたち一人ひとりが栄養に関する正しい知識を身に付け、バランスのとれた食事を楽しみながらとることが大切です。



このコーナーに掲載を希望されない方は手続きのときに、お申し出ください。

おめでた

8月受付分(敬称略)



おひやみ

8月受付分(敬称略)

本庁 (出生児)	末永 京慈	尾堂 優弥	吉田 壯汰	松田 陽希	中島 結葉	内門 結葉	弓指 斗葉	阿多 芽斗	金川 芽笑	田代 海翔	久保 蓮	所崎 竜万	箕田 拓海	松尾 珠希	河野 信	(出生児)	日吉支所 (出生児)	迫 颯磨	坂口 伶央
(保護者)	清実	勝正	勝	智宏	史博	裕二	拓陽	芳尚	幸司	裕次	哲	真	昭彦	正章	義信	(保護者)	亮治	良太	
(自治会)	恋之原	妙円寺1・4区	猪鹿倉	郡上	猪鹿倉	立野	上土橋	瀬戸内	向江町	日吉町寺下	駅前	駅前	川北	駅前	(自治会)	池上	狩谷		

桑原 泰河	吹上支所 (出生児)	田中 美帆	東 重良	川路 司	宮田 光江	中玉利重昭	馬場園ヨシ	東 蓉子	横手 マツ	地頭江豊志	上之園ヒモ	別府 ミサ	西 ハツ子	野崎 一清	福田 正巳	大谷 裕子	有村 十二	丸田 ノブ	室之園輝正															
侯武	(保護者)	秀幸	猪鹿倉	竹之山	妙円寺8区	瀬戸内	竹之山	野田1区	寺脇	中福良	飯牟礼下	瀬戸内	猪鹿倉	徳重東	妙円寺2区	元湯	元養母	麓下	下養母下															
片町	(自治会)	北湯之元	猪鹿倉	竹之山	妙円寺8区	瀬戸内	竹之山	野田1区	寺脇	中福良	飯牟礼下	瀬戸内	猪鹿倉	徳重東	妙円寺2区	元湯	元養母	麓下	下養母下															
福留キミエ	(故人)	鈴木 タカ	打越 貞文	山口 シヅ	下野 安治	川崎 エミ	今屋 親光	宮 盛己	坂上 英熊	鳥越 信一	宮下理津代	榊 ヨシエ	田中 テル	99	76	32	87	94	65	69	83	53	72	62	81	76	92	85	74	85	97	96		
江夏クニ	(故人)	大庭 スミエ	安田 淳一	上谷 兼治	上園 義治	佐野登美子	下野 安治	川崎 エミ	今屋 親光	宮 盛己	坂上 英熊	鳥越 信一	宮下理津代	榊 ヨシエ	田中 テル	99	76	32	87	94	65	69	83	53	72	62	81	76	92	85	74	85	97	96
秋光園	(自治会)	丸牧	新町	梅里	東本町	北湯之元	亀原	多宝寺	梅里下	今田	小野	下中之里	北湯之元	小野馬場	中和田	99	76	32	87	94	65	69	83	53	72	62	81	76	92	85	74	85	97	96
秋光園	(自治会)	丸牧	新町	梅里	東本町	北湯之元	亀原	多宝寺	梅里下	今田	小野	下中之里	北湯之元	小野馬場	中和田	99	76	32	87	94	65	69	83	53	72	62	81	76	92	85	74	85	97	96

スポーツの秋 みんなで参加



長年、旧町で『町民運動会』として親しまれてきた運動会は、今年も4地域でそれぞれ開催されます。開催日程等は次のとおりです。

地域	日時	場所
東市来	10月9日(日) 午前8時30分開会	東市来総合運動公園 多目的陸上競技場
伊集院	10月9日(日) 午前8時50分開会	伊集院総合運動公園 陸上競技場
日吉	10月9日(日) 午前8時30分開会	日吉運動公園 グラウンド
吹上	10月9日(日) 午前9時00分開会	吹上浜公陸上競技場

*雨天の場合は中止になります。

調査票の記入をお願いします



黒鉛筆を使って、所定の事項に正しく記入してください。

- 10月1日現在で平成17年国勢調査が行われます。
- 日本に住んでいるすべての人が対象になります。
- 国勢調査員が10月1日までに皆さんのお宅に調査票を配布し、10月上旬に受け取りにうかがいます。
- 国勢調査員をはじめとする調査関係者には守秘義務があり、調査内容の秘密は保護されます。
- 調査票が届いていないときは、日置市役所までご連絡ください。

2005 国勢調査日置市実施本部
日置市役所企画課内 (☎273-2111)

かぼちゃのそぼろあんかけ



【作り方】

- かぼちゃは2cm角切りで面取りし、人参・玉ねぎは小さめに切り、ねぎは小口切りにする。
- 鍋に油を熱し、挽肉を炒め、次に野菜を炒め、スープを加えて調味料を入れ、やわらかくなったら片栗粉の水溶きを入れ、ねぎを散らす。

【材料(4人分)】

- かぼちゃ……………350g
- 鶏挽肉……………120g
- 人参……………80g
- 玉ねぎ……………100g
- 油……………大さじ1.5
- 醤油……………大さじ3
- 砂糖……………大さじ2.5
- スープ……………1cc
- みりん……………小さじ2
- 片栗粉……………大さじ1
- 小ねぎ……………少々

食改さんの健康メニュー



ギョウワ 私の作品展

貝殻細工 絵「桜島」と小物

武田 ノブさん(80歳) 吹上町入来浜

貝殻の美しさに魅せられ遊びで始めた貝殻細工はすでに30年近い。貝殻だけで描いた絵やかわいい小物など芸術的な作品が数多く並ぶ。貝殻の自然な色や形の持ち味をいかに表現するかが楽しいです。手先の細かい作業だけに老化防止にも一役かっています。



ウチマチ まちの文化財 ④

徳重神社と妙円寺詣り(伊集院地域)

伊集院町徳重にあり「妙円寺詣り」が行われることで有名です。妙円寺は元中7年(1390)に石屋真梁が創建しました。島津家第17代当主義弘は、菩提寺を妙円寺に決め、自分の木像を妙円寺に寄付しました。境内には、義弘に殉死した13人の供養塔が残っています。明治2年に廃仏毀釈で廃寺となり、その跡地に義弘を祭神とする徳重神社が建てられました。神社のご神体は義弘の木像です。ちなみに、妙円寺は明治14年に徳重神社の近くに再建されています。

義弘は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで、豊臣方として徳川方と激しく戦いました。「妙円寺詣り」は、鹿児島城下の武士たちが、義弘をはじめとした島津勢の苦闘を偲んで始めたときとされています。関ヶ原の戦い前夜の9月14日夜に、甲冑をつけて、鹿児島を出発して妙円寺に参拝し、その夜のうち鹿児島に帰ったそうです。明治維新の功労者大久保利通も西郷隆盛と共に参詣したことが、大久保の日記に書かれています。

戦後の一時期、中断したこともありましたが、現在まで受け継がれています。平成4年までは旧暦の9月14日に行っていましたが、現在では10月の第4日曜日に開催しています。

引用参考文献 『伊集院町誌』



Access

JR伊集院駅の北側
駅より歩いて約10分

「よし、あと一点でオリンピック出場決定だ。がんばれ。」そう思ったしゅん間、佐々木選手のサーブで点が入り、全日本女子バレーボールはアテネへの



ゆめ & チャレンジ

『めざせ、未来の日本代表』

扇尾小学校五年 諸正 奈々さん

キップを手にいれました。その時、わたしは強く思ったのです。「わたしもオリンピックに行きたい。わたしの好きな大友選手と。前からバレーは好きでしたし、母もバレーをやっていたので、母に教えてもらいながら、ぜひこの夢を達成させたい。」残念ながら、今バレーができるのは、週に一回、スポーツ少年団でできるのは、週に一回、学校の休み時間には、友達とパス練習をしたり、朝、校庭を十周以上走るなど、体をきたえています。いつかオリンピック出場を決め、活躍し、バレーの強い国もやぶって表彰台にのぼり、金メダルをもらいたいです。そしてみんなが知っている有名なバレー選手になりたいです。

いきいき ひと

シリーズ④



地域づくりにも多忙な毎日それが元気の源



山口 義光さん [66歳]

やま ぐち よし みつ

日吉町日置 (八幡自治会)

平成14年から八幡地区公民館長
校区青少年育成会会長 川東体育協会副会長
市農業委員 市地域審議会委員
せつべとべ実行委員

日吉支所にはほど近い、まちの中心地域にある八幡地区。その公民館長の山口さんは、館長のほかに地域の青少年育成会や体育協会の役員、伝統行事の実行委員といった地域づくりの中心的な役割を果たすほか、市の農業委員や地域審議会委員等も務めます。六年前に勤めていた会社を定年。その少し前に集落会長を引き受けたのがきっかけで、さまざまな役を受けるようになりました。地域の行事が多い月などは毎日のように、昼夜を問わず忙しい日々が続きます。でも、「わたしはまとめ役をやっているだけ。それぞれ関係する専門部の役員さんたちが積極的に動いてくれるので助かっています」と苦労は感じさせません。取材したときには、郷土の伝統芸能「太鼓踊り」の練習の真っ最中。「わたしが踊るわけでも教えるわけでもありません」と言いながら、練習には毎晩、足を運びます。「地域の伝統芸能はしっかりと守りながら後世に引き継いでいきたい。それが郷土への愛着や地域づくりを育むきっかけになると思っています」せつべとべの舞台となる御神田も山口さんの所有です。「子どもからお年寄りまでが本当にここに住んでよかったと思える住みよい地域づくりに努めたい」まだまだ、忙しい日々が続く山口さん。



下園 海翔くん(3歳)
翔翼くん(1歳9ヶ月)

父 忠征さん 母 ひろみさん
(吹上町 和田)

■おかあさんから
弟思いのやさしいお兄ちゃん、やんちゃんな弟だけどいつまでも仲良くしてね。お父さんの太鼓踊り、かっこよかったね。いつか3人で踊るのを楽しみにしています。



有馬 綾音ちゃん(2歳4ヶ月)

父 志伸さん 母 美晴さん
(吹上町 湯之浦)

■おかあさんから
いつもお姉ちゃんと歌って踊っているせいか、太鼓踊りのリズムにノリノリで足を上げていました。あとは音程がとれれば…。明るく元気よく、やさしく育てほしいです。

元気のあるお子さんの写真を募集しています。市内に在住の5歳以下のお子さん。氏名 生年月日 保護者氏名 お子さんの近況・お子さんへのコメント 広報へのご意見連絡先を添えて、市役所総務企画部企画課 住所は未定までお送りください。●今月は、伊作太鼓踊り会場で見つけたお子さんです。